

せ得ないことがあるのでありまして、幼児教育にしても、一人々の幼児に最も理想的の教育を施さうといふこと、社會の爲めにその普及を圖らうといふことは理論上には必ずしも矛盾することではありませんが實際上には往々にして兩立しがたいことがあつて、茲に教育者の少からざる煩悶を生ずるのが普通でありますが滿洲の幼児教育も目下丁度その煩悶に入つて居るやうに見えるのであります。會社の教育當事者の苦心も實にこの點にあるやうに察せられました。斯う申すと現在の幼児運動場が教育的にさも不完全であるかのやうに聞えるかも知れませんが決してさうではありません。建物は小學校の一部或は俱樂部の建物なぞ

を利用して居つて、専門的に幼児教育場として設計され、獨立に建築されて居るものは殆んど無いのであります。しかしその廣さに於ても、殊に遊園の廣さ等に於てもこれを東京市立幼稚園の平均状態に比して、決して劣らない、或るものはずつと優つて居るのであります。尤も東京市の幼稚園の設備が甚だ結構でないものが多いのでありますから、それを標準にしたところで、何の役にも立たないやうなわけではありませんが會社が幼児運動場の爲めに、幼児一人に就き年十二圓の人頭割(月謝六圓總額計十八圓)の支出をして居ることは必ずしも少い額ではないのであります。(以下次號)

幼稚園出身の成績

城東幼稚園長 山邊知之

確か本年の二月であつたと思ふ。青山師範學校

の附屬小學校で發した家庭通信に、幼稚園出身兒

童は入學當時は非常に成績がよろしいが、日を経るに從つて、漸々庸化して行く、然るに一方幼稚園を通らずに家庭から直接に小學校へ來た兒童は幼稚園出身兒童に對して入學當時に比較的劣るが日を経るに從つて、漸々優化して行く。つまり幼稚園出身兒童と、家庭から直接に小學校へ入る兒童とは丁度正反對の現象を呈し、結局、幼稚園出身兒童がその入學前の幾年かの保育に負ふ所は極めて些少であるといふことになる、否そればかりではなく、幼稚園出身兒童はたゞ入學當時二三ヶ月の間に於て稍々取扱の便宜があるのみで、その後は教師に狎れる傾向があつたり、授業時間中に手いたづらをしたり、教師を保母の如く心得て居たりして甚だ喜ばしからぬ事柄が多い——と大體這麼ことが言つてあつたと思ふ。

この家庭通信には尙同校が三ヶ年に亙つて調査したといふ幼稚園出身兒童と然らざるものとの比較成績表が掲げられてある、これは毎年第一學期

の終、即ち七月の末に調査した成績と、第二學期の終、即ち十二月の末に調査したそれとを比較したものである。これを見ると、幼稚園出身兒童は、第二學期の成績を第一學期のそれに較べて、

よくなつたもの

五・二六

わるくなつたもの

七三・六九

よくもわるくもならぬもの

一五・七八

斯る結果を得て居るのである、即ちよくなつたものが非常に尠く、わるくなつたものが非常に多いのである。然るに一方幼稚園を経ずに家庭から直接に小學校へ來た兒童は如何といふに、これは又非常に結構な成績を得て居る、即ち

よくなつたもの

四四・八三

わるくなつたもの

一三・七九

よくもわるくもならぬもの

四一・三七

といふ結果になつて居るのである。而して尙この家庭通信には幼稚園に關して斯ういふ結論が掲載せられて居たのである。即ち幼稚園は必ずしも

悪いものではない、立派な幼稚園は否定すべきも
のではないと、

諸君は以上の統計なり、所説なりに就て如何に
お考へになるであらうか。

最後の結論として掲げられた、幼稚園は必ずし
も悪いものではない、立派な幼稚園は否定すべき
ものではないといふやうなことは何事に就ても言
はれることで、立派なとか善いとかいふ形容詞は
既にそのものゝ否定せらるべきでないことを物語
つて居るのである、故に斯ることは論とはならな
いのである。

而して、彼の比較成績表の如きも、よし三ヶ年
に互つて之を調査したるものにもせよ、第一學期
と第二學期との比較成績だけを調査したに止り、
而かも他校に於ける同様の統計をも參酌すること
なしに、幼稚園の可否を断定する材料とするが如
きは些か亂暴である。

日本橋區の坂本尋常小學校でも六ヶ年在學して

卒業した兒童に就て、毎年、幼稚園出身及び非出
身の兩種兒童の成績を比較し、次に掲ぐる如き表
を得て居る。これは僅かに一學期を隔て、比較し
た成績ではなく、尋常小學の業を終へた時に、幼
稚園出身兒童と、同上非出身兒童との成績を比較
したものである。

この坂本小學校の調査に依ると、幼稚園出身兒
童は同上非出身兒童に較べて、學力に於て優つて
居るのである。即ち大正三年から大正五年に至る、
毎年三月の卒業成績比較表を平均してみると、學
力に於て甲の成績を取つたものを見ると幼稚園出
身兒童は男四五・三、女四〇・九であるが幼稚園非
出身兒童は男一四・二、女一七・一である。

又身體の方面で強の成績を取つたものを見る
と、幼稚園出身兒童は男二八・三、女二九・五であ
るが、幼稚非出身兒童は男二八・三、女二七・四で
ある。身體の方は尙この上に弱の成績を參照して
見ると、幼稚園出身兒童は同上非出身兒童と同程

度が若しくは稍劣るやうである。幼稚園出身兒童にして體格の弱を取る者が稍多いのは大いに考ふべきことであらうと思ふ、これは幼稚園に於て保育を受けたるが爲めに體格の弱を來たしたものであるか、それとも又幼稚園へ入る、上中流の家庭の幼兒が初から體格が弱く、寧ろ幼稚園保育を受けたるが故に、強の體格を得ることに於て、幼稚園出身兒童と略似寄りの百分比を得ることが出来るのであるか、これは尙多くの實驗調査を経た後でなくては遽かに判定しかねる問題である。

幼稚園は法令から見ると、家庭の補助機關たるに過ぎないことになつて居る、その施行細目は小學校令の中に規定されて居て、未だ獨立せるものとは認められて居ないらしい。しかし法令は兎に角、私は幼稚園といふものゝ可能性を开廢に小さいものとは見積りたくないのである。

幼稚園保育は家庭の育児法とは確かに違はなければならぬ、幼稚園は普通の家庭で行ひ難く、而

かも幼兒の完全に近き教育に於ては是非とも缺くことの出来ない特殊の教育を施す所なのである。

以上の一般問題から離れて、少しく自分の幼稚園に就てお話をすることを許して戴きたい、自分の幼稚園は日本橋區内にある。御承知の如く日本橋區といふところは人家稠密なところで、先祖代々の東京人種の多く居住して居るところである。各の家は互ひに障礙となつて、十分の日光に浴することは出来ない、近來では往來を除くその他、些の空地も餘すところなく、ぎつしりと家並が建込んで居るために、もはや横に延びる餘裕は少しもないことゝなつた、それで止むなく三階建、四階建の家が漸々その數を増して行く。

以上の如き有様であるから子供の遊び場所といふものは殆んど絶對に無いと言つてもよい位なのである、往還には電車が斷間なししつかりに動いて居る、自動車自動車が駆け抜ける、荷車が通る、俥が行く、とても危険で遊んでなぞ居られるものでない、家庭

といつても、多くは植木鉢を並べるだけの庭さへ

もなく、室内も狭い、稍廣いのは店先きであるが、こゝでは絶対に遊ぶことは禁せられる。さあ斯うなると活動的な子供は一體何處で遊んだらいいのであらうか、両親は纒かに菓子等を與へて彼等を慰めて居る、乃で日本橋區内の幼児には恐しく胃腸病患者が多いことゝなる。これでは、とても子供を満足に育てることは六ヶ敷い。乃で哀しいかな斯ういふ結論が出来上る、曰く日本橋區は子供の爲めを思ふ人の住むべき場所にあらず。それ故心ある人は近來家族の居住地を郊外に求めて、そこから毎日汽車電車の便によつて、その店へ通ふやうにして居る、このほか尙他の原因も加つて、東京市に於て人口の減少して行くのは、ひとり日本橋區あるのみである。

併しながら、中には何うしても郊外へ移住し難き事情を有する人も決して尠くはないのである、而して是等の人々の子弟幼児は矢張日本橋區内に

於て教育せられざるを得ない。

日の光をあまり見たことのない母によつて産まれた日本橋區内の多くの幼児は既に遺傳的に纖弱な體質を與へられて居る。而かも、彼等は十分なる戯動遊戯によつて強壯な體格を得ることは出来ないものである。以上の事情をお話すれば日本橋區に於て、よし庭がなくとも、百五十坪の屋上庭園を擧げて幼児の自由遊び場たらしめて居る我が幼稚園が存在の可否問題などを超越して居るものなることを御了解になることが出来ると信ずるのである。お話が自分の幼稚園に關する事柄になつて了つたが兎に角斯る方面から見ても幼稚園の價値が今更の如くに云爲さるべきではないのである。

(文責在記者)